



たくさんのご来校

参観日じゃない日でも授業参観歓迎します！



3年A組 理科の授業より

4月24日(金)
授業参観日
全体懇談会
PTA総会
学級懇談会

ありがとうございました！

今年度1回目の授業参観日を、今月24日(金曜日)に実施しました。

年度はじめの参観日は、PTA総会も設定していることから、例年は土曜日に実施していました。しかし、ここ数年、地域クラブ活動などの予定と重なり、学校を欠席せざるを得なくなる子が増えたことから、今年度は、平日開催とさせていただきます。

おそらく、お仕事などの関係で参加できなかった方もいらっしゃったことと存じます。大変申し訳ありませんでしたが、諸事情をご理解いただきますよう、お願いいたします。

また、授業参観では、1学級の人数が多く、教室での参観を窮屈に思われた方も多かったと存じます。そのような中でも、たくさんのお保護者の皆さんにご参観いただき、ありがたかったです。

授業参観に引き続き、全体懇談会とPTA総会にもご参加くださった方も多く、学校の教育活動に関心をもっていただいていることに感謝しています。

今後は学校で設定した参観日に限らず、フラッと学校に寄っていただき、お子さんの授業を参観していただいても構いません。お時間あるときにはぜひ、ご来校ください。なお、事前にご連絡くださると対応可能です。

学校はいつでもオープンですので、参観日じゃなくても、いつでもお子さんの様子を見に来てください！

部活動の地域展開

同日、全体懇談会に先立ち、羽幌町教育委員会社会教育担当の木村主幹より、部活動の地域展開について以下のことを説明していただきました。藤田係長、内田協力隊も同席してくださいました。

【地域展開が必要な3つの課題】

- ①中学生の大幅な減少により、学校単位では部活動が成り立たない
- ②部活動数の減少により、子どもたちのニーズに応じた活動の保障が困難
- ③教員の長時間勤務が深刻化。専門性のある教員の確保が困難

部活動の地域展開は学校独自で進めているのではなく、国レベルの課題になっているということを改めてご理解いただけたのではないかと存じます。今後とも協力くださいますよう、よろしく願いいたします。

※本校HP「令和8年度からの羽幌中学校の部活動について」→
もご参照ください。



「おしらせ→羽幌中学校の部活動地域展開」

PTA 役員 の皆さん 1年間 よろしく お願いします！

旧役員の方のご尽力により、昨年度末の早い時期から内定していた役員ですが、先日の総会にて正式に決定いたしました。今年度、何卒よろしくお願ひいたします。くれぐれ

も過剰なご負担をかけることのないよう、必要最低限の活動にしております。なお、我々教職員が困ったときには相談にのってください。その時は、よろしくお願ひします！

全体懇談会にて、校長の私から保護者の皆様に対し、今年度の学校方針の一環でもある「ご家庭へのミッション」として、3つの校訓に沿ったお願ひをいたしました。

各家庭に「やっつけてください！」などと、大変厚かましく、失礼とは承知しておりますが、子どもたちの健やかな成長のためと考えています。

以下に当日の概要を掲載しました。ぜひ、よろしくお願ひいたします。

なお、学校ではスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなど、お子さんの発育・発達や、家庭教育・環境など、専門的に対応して下さる方も関わっております。

何かあれば小さなことでも構いませんので、お気軽にご相談ください。

会長	伊藤 雅紀 (2年)	(敬称略)
副会長	高本 綾子 (3年) 兼3学年部長	副部長 有野 絵美
副会長	帰山 美子 (2年) 兼2学年部長	副部長 工藤 智香子
副会長	佐藤 真美 (1年) 兼1学年部長	副部長 石川 絵厘
監査	福嶋 理美 (3年)	
監査	原田 育世 (1年)	
事務局長	佐藤 隆司 (教頭)	
会計	上浦 真之介 (事務)	



【教養部】

部長	蟻戸 恵子 (3年)
副部長	戸来 玲奈 (2年)
部員	井上 真奈美 (1年)
教員	加地 奈保子 (教務)

【育成部】

部長	坂本 由香 (3年)
副部長	北岡 芽依 (2年)
部員	鈴木 佳鈴 (1年)
教員	村上 美絵子 (指導)

「勉強内容の定着」よりも「勉強に向かう習慣」を重視する生活の確立

自学

「マルチステージ型人生」を生きる子どものための、社会生活における「学び」の重要性の理解

学校では、自ら学びを求めることを目標にしています。つまり、「やらされる勉強」ではなく「進んで取り組む勉強」になってほしいと願っています。そのため、先生方は、そのような学びの場になるよう毎時間の授業を工夫し、意欲的に学びながらチカラを高めるような授業づくりに励みます。保護者の皆さんには

ぜひ、お家でも同様のスタンスでご指導いただくことをお願ひします。勉強することを「強制」するよりも、「応援」や「支援」することが有効であると考えています。短期に学んで身に付く知識量よりも、学ぶ習慣や意義の理解と行動の方がこれからの人生において役に立つこととなります。

「自分が決めて、自分で動く」ことが実践できる環境づくり

自律

家庭生活におけるルールづくりと遵守するための点検や内容の見直し

昨年度は、「学校で指導はできるけど、管理ができないこと」で、問題になることがありました。特に、スマホやSNSによるトラブルに関しては、校外で起こったこととはいえ、学校での人間関係や学級づくりに悪影響を及ぼすことにつながります。他者を冷やかしたり、パカにしたり、ひどくは誹謗中傷まがいの言

葉は、集団の心理的安全性が低くなり、不信感や不快感の中で過ごすこととなります。家庭では生活におけるルールづくりと、それをきちんと守るための環境をつくってほしいです。特にスマホ・SNS活用については、中学生としての望ましい使い方の指導や管理を徹底してもらいたいです。

ダイバーシティ（多様性の尊重）を意識した言動と家族の共通認識

協力

人としての道徳観や礼儀作法、相手に応じた言葉遣いや社会的なマナーなどの躰

今の子どもたちが社会に出るころには、ダイバーシティが常識となり、差別的な言動をする人は誰からも受け入れられなくなってしまいます。「大人は子どもの鏡」と言われます。もし、お家で親による差別的な発言や態度があったなら、そのままお子さんの考え方に反映する可能性があります。性別や人

種、国籍、障害などで、誰もが差別を受けられない社会がやって来ます。そこに適応できる人に育てなければなりません。また、挨拶や礼儀、社会生活に必要なマナーなど、お子さんが社会に出たとき、求められる存在になるための躰（しつけ）についても、家庭と学校とでチカラを合わせて共に育てていきましょう。